

| 項 | 目次           |
|---|--------------|
| 1 | ノート、略語と リスク表 |
| 2 | 国内ニュース       |

### 略語

|           |                                     |
|-----------|-------------------------------------|
| HTS       | 「ハヤト・タハリール・シャム」Hayat Tahrir al-Sham |
| IS        | イスラム国                               |
| HH        | 世帯                                  |
| VASyR2018 | 2018年レバノンのシリア難民における脆弱性評価            |
| NFI       | 食料以外の物資                             |

この文書はジャパン・プラットフォーム内およびその関係者のみの利用に限ります。この文書は、JPF セキュリティアドバイザーの同意なく、再配布することを禁じます。

以下文書内で“コメント…”とイタリック体で記載され、後述の文章もイタリック体で記載されている場合、筆者の意見を述べており、事実ではないことがあります。

**免責事項:** この文書の目的は、情報と分析をし、アドバイスを提供することです。ジャパン・プラットフォームは、この文書に基づき、読者がいかなる行動や措置をとった場合でも、責任を負いかねますことご了承ください。

| ロケーション   | リスクレベル | コメント   | フォーキャスト  |
|--|--------|--|--|
| Beirut、Mount Lebanon (ML) 及び Litani River 北部の南レバノン                                 | 低      | あらゆる主要都市が直面している通常の犯罪及び売買の脅威に加えて、Beirut にはレバノンを特徴づける宗教的及び民族的分裂に関連した脅威がある。状況は急速に変化する可能性があり、紛争を煽る小型武器の拡散が起こっている。しかしながら、通常は大規模な崩壊の前に強い指標が見られる。     | 最近の楽観主義にもかかわらず、新政権の設立は保証されていない。新政権が発足したとしても、レバノンの経済的及び社会的問題は減少しない。                                     |
| Beirut 近郊の Haret Hraik と Borjal Brajne、Tripoli、Zahle、Baalbek、Litani River 南部の南レバノン | 中      | これらの Beirut 近郊のエリアは、シーア派が顕著であり、ヒズボラに占領されている。Litani River の南もヒズボラに支配されており、訪問には許可が必要である。Zahle と Baalbek は犯罪率が高い。Tripoli には過激派分子がおり、犯罪が頻発している。    | ヒズボラはレバノンにおいて事実上の政権であり続け、スンニ派の過激派及びイスラエルに積極的に標的にされる。Tripoli、Zahle 及び Baalbek のセキュリティ状況が改善することを示す指標はない。 |
| すべての国境から 5km 圏内、Baalbeck の北、Tripoli の北、Borjal Brajne 及び Ain el Helweh パレスチナキャンプ    | 高      | Baalbek 北部及び北部の国境エリアは誘拐、違法薬物生産を含む犯罪水準が非常に高い。北東は 2017 年まで数年間、過激派集団によって占領されていた。イスラエルとの南部国境は不安定な状況である。パレスチナキャンプは予測不可能な状況で、Ain el Helweh は特に危険である。 | 北東の状況は改善し、安定が続くと予想されており、中程度に下がるだろう。すべての国境エリア、特にイスラエルとの国境は引き続き高いリスクのままであると予想される。                        |

## 1. 国内ニュース

### 新政権の結成

総選挙から8ヶ月後の2019年1月末、Hariri首相(PM)は数ヶ月に渡る交渉の後に自身の内閣を発足した。ヒズボラは、準軍事的グループと連携している党のメンバーが外務、財務及び保健省を率いるよう任命されたことで最も恩恵を受けた。コメント: Hariri と 其他政界の既成勢力分子が、政権内のヒズボラの影響の増大に抵抗していたとしても、結局は折れなければならなかった-ヒズボラは国内で最も強力な唯一の存在である。それにもかかわらずヒズボラは、主要メンバーに対して制裁を実施しているアメリカによってテロ組織としてリストに記載されている。

政権の結成により、首相は世界銀行からの\$110億の融資及び助成金を使用できるようになる。これらは、新政権が結成されるまで見合わされていた。しかしながら、Haririは手強い課題に直面している。レバノンの経済は破綻に近く、政治的内紛と利己主義は続き、仕事、医療の向上及び政治的腐敗の終結を要望する国中のデモ活動は止まらないだろう。

### レバノン軍へのアメリカ軍の支援

2005年より、アメリカはレバノン軍に\$23億以上の援助を提供してきた。2017と2018年には、アメリカ政府はA-29スーパーツカノ軽攻撃機を供給した。2019年2月には、A-29から操作される\$1600万以上の価値があるレーザー誘導ロケットが、アメリカ軍から輸送された。コメント: レバノンは、一方ではアメリカとサウジアラビア、もう一方ではイランとヒズボラの代理戦争の真ん中にある。アメリカは、レバノンの軍事力を国内におけるヒズボラの軍事力に対抗するものとして維持し、レバノンの軍事力を国の正当な防衛者として認識していることを明示する必要がある。アメリカが支援をやめた場合、ロシア、そしておそらくイランがその空白を埋め、その地域におけるアメリカの影響力はさらに枯渇するだろう。

### イスラム過激派の逮捕

2019年1月上旬、治安部隊はArsalでイスラム国(IS)過激派と疑われる3名のシリア人を逮捕した。2月には、当局は、al Qaedaに関連する過激派シリアの武装反対派グループであるHayat Tahrir al-Sham (HTS)のメンバーと疑われる者を逮捕した。伝えられるところによると、容疑者はシリア国民であり、卓越した爆発物及びロケット製造者であるとされている。コメント: HTSとISは、2017年8月にレバノン軍とヒズボラに追い出されるまで、レバノン北東部のArsal, Ras Baalbek, al-Qaa周辺において、大きな存在感を示していた。しかしながら、これらのエリアの過激派グループの存在は未だ懸念される。

### 広がるデモ、抗議活動、及びストライキ

2018年12月から2019年1月にかけて、全国で抗議活動が続いた。通常通り、特にBeirutが影響を受けた。ほとんどが平和的であったが、時折道路の封鎖、タイヤを燃やす、警察との衝突など暴力的にもなりうる。抗議活動の理由としては、乏しい就職の見通し、低賃金、労働条件、不十分な電力供給、不安定な廃棄物管理、輸送改革、長期に渡る政府のこう着状態、及び国の貧しい経済状況が含まれる。コメント: 新政権の結成にもかかわらず、抗議活動は減少すると予想されてはいない。



### イスラエルとの緊張

レバノン政府とイスラエルの継続した緊張は、いくつかの問題によって維持されている。イスラエルは、二国間の国境を軍のパトロールや、国境上でのレバノンの羊飼い及び農民の短い拘束によって侵害している。シリアでイラン及びヒズボラの標的に対し空中攻撃を開始する時、イスラエル空軍は空対地ミサイルを発射するためレバノン空域の安全性を利用している。最近ではイスラエルは、レバノンが国連安全保障理事会に苦情を申し立てる原因となる壁を含む数々の防壁を国境に築き始めた。これらの問題は、レバノンにおけるヒズボラの強力な存在感の影響、及びそのシリア内線への関与によって引き起こされている。

深刻さを増している問題は、2カ国の間で争点となっている地中海の国境線である。このエリアはほぼ手付かずの油田と天然ガス田が豊富である。2019年1月、イスラエルはある会社に争点となっている国境付近で石油とガスを掘削する許可を与え、レバノン政府から異議と批判を引き起こした。



## 2. 人道的状況

### 事実と数字

レバノン(推計人口 590 万)は、世界で一人当たりの難民数が最も多い。

推定されるシリア人数: **150 万**以上

登録シリア難民: 948,849 / 216,028 HH

登録パレスチナ難民: 278,000

シリアからのパレスチナ難民: 34,000

登録イラク難民: 14,322

登録スーダン難民: 1,902

その他難民人口: 1,976

4つのロケーションに集中しているシリア難民:

1. Bekaa.: 36% / 340,512
2. North Lebanon: 26% / 248,380
3. Beirut: %26 / 245,960
4. South Lebanon: %12 / 113,997

### 主要な優先事項 - VASyR2018

食料と家賃が値上がりし、仕事を得るための競争が増加、健康と教育システムに圧力がかかっている。加えて、レバノンの難民は書類の欠如、立ち退き、差別を含む重大な保護問題に直面している。シリア人のシリアへの帰還に対する政府とヒズボラの圧力は高まっているが、実際の帰還者数は不明のままである。

- ▶ 安全性とノン・ルフーマン原則への継続したアクセス
- ▶ 市民のステータス及び法的文書
- ▶ 人道的基準を満たす避難所、水、及び衛生
- ▶ 食料安全保障の改善及び食料アクセスの確保
- ▶ 経済的脆弱性への対応
- ▶ 子供達の幸福(教育、健康及び保護)を守る
- ▶ 母子家庭への特別な注意と、すべてのプログラミングにおけるジェダーレンズの確保

ソース:

<https://data2.unhcr.org/en/documents/download/67380>



### 洪水と悪天候

洪水、雪、暴風雨は Bekaa, Akkar 及び Baalbek 行政区域に住む 23,000 人以上のシリア難民に深刻な影響を与えている。新たな暴風雨の発生が予想されていることから、簡易住居に住む 70,000 人以上のシリア難民が危険にさらされている。適切な避難所と NFI が優先度の高いニーズである。360 以上の難民サイトが重大な被害を受け、1,000 人以上のシリア難民が避難することとなった。特に Bekaa 渓谷にある、浸水した非公式の難民定住地へのアクセスは未だ制限されている。

### 主要な人道的ニーズ

**保護:** 法的文書、特に合法的居住及び出生登録を取得することは、シリア難民にとって課題であり続けていた。全体としては、インタビューを受けた 15 歳以上の 73%の難民が合法的居住権を所持していない。

児童婚は引き続き懸念され、15 から 19 歳の間の 10 人中 3 人の女兒が現在結婚している。

少なくとも 180,000 人の子供達がレバノン各地で働いていると考えられており、その多くはシリア人である。

**教育:** 難民の子供(3-17 歳)の半数以上が非就学である。主な理由は費用に関連している。

15 から 24 歳までの 61%のシリア難民が雇用されておらず、教育も受けておらず、何らかの研修も受けていない。

**生計(HH):** 男女両方が仕事を探していない理由として、HH メンバーの世話の必要性、スキルの欠如と経験がないことを挙げている。

**食料安全保障:** シリア難民世帯の 34%が未だ中から重程度の食糧不足である。

**健康:** 1/3 の HH が、緊急時にどこで医療サービスにアクセスするのか知らないままである。どの医療クリニックが難民の対応に関わっているかについて、コミュニケーションを強化するべきである。

レビュー用の主要な資料:

[https://www.acaps.org/sites/acaps/files/products/files/20190111\\_acaps\\_briefing\\_note\\_storm\\_norma\\_lebanon\\_final.pdf](https://www.acaps.org/sites/acaps/files/products/files/20190111_acaps_briefing_note_storm_norma_lebanon_final.pdf)

[https://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/LCRP2018\\_EN\\_Full\\_180122.pdf](https://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/LCRP2018_EN_Full_180122.pdf)